初島住彦* 新帰化植物ホザキキンゴジカ

S. HATUSIMA : *Sida subspicata* F. v. M., A Plant Recently Naturalized in Japan

Sida subspicata F. v. M.

* 琉球大学理工学部生物学教室 Facult. Sci. & Engin., Ryukyu Univ.

最近山梨女子短大の長田武正博士から三重県度合郡小俣町で大田久次氏が1962年9月16日に採集されたキンゴジカ属の一帰化品を花，果実の解剖図をつけて鑑定のため小生の所に送ってきた。小生も初めて見る種類で，あれこれ文献を当って見たが見当がつかなかった。そこでアメリカのWALKER氏に標本を送って調べてもらったがNational Herbariumにも概当する標本が見当らないとの返事で標本は送返されて来た。やむをえず今度はオランダの *Rijksherbarium* のvan STEENIS氏の所に送った所J. F. VELDKAMP博士の元で研究している学生，E. J. DEKKER氏が濠州産の *Sida subspicata* F. v. M. と完全に一致することを確めたとの返事があった。

今参考までに本種の記載をBENTHAM, Flora Australiensis 1 (1863) p. 192から転載して見る。

上向する低木で密軟細毛を疎につけて緑色を呈するか，または *S. virgata* や *S. macropoda* のように毛を密布する。しかし時としては花序だけに密毛がある。葉は心状卵形～披針形，長さ2.5～5㎝，鈍頭，鈍鋸歯縁，心脚～円脚，上面には多少皺があり，下面の脈は著しく，粗糙，ビロード状の毛があるか，または密軟細毛がある。花は小形，ほとんど無柄，束生または稀に単生，上方の花の塊りは往々頂生の穂状花序をなし少数の小形の苞葉を伴なう。萼は無肋，裂片は鋭頭，少なくとも花筒と同長で果実を被いかけているが全く被うことはない。花弁は長さ萼片の2倍位。雄芯は10本以下。果実はほぼ球形であるが心皮間に溝がある。心皮は5～6，密軟細毛があり，側面には網眼があるが背面に皺はなく，鋭尖頭でない。

産地．濠州（北部，クインスランド，ニューサウスウエルス）。

和名は花序の特長からホザキキンゴジカとしておきたい。